

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【愛知県立大府東高等学校】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	全校生徒 679名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育）</p> <p>② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育講演会）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関する知識・理解を深めることで、東京五輪への興味・関心を高める。また、スポーツを通じた障がい者への支援について考え、ノーマライゼーションの理解を深める。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>体育理論の授業の中で、オリンピック・パラリンピックの歴史や文化、これから求められるスポーツの可能性について調べる。また、調べた内容を発表することで様々な情報を共有し、東京五輪を多面的な視点で観られるようにする。</p> <p>(2) 講演会</p> <p>講師 至学館大学 健康科学部 健康スポーツ科学科 教授 大槻 洋也 氏 (2016リオパラリンピック日本代表選手団団長)</p>



<p>6 主な成果</p>	<p>2016リオパラリンピック日本代表選手団団長としてのリアルな体験談を聞くことができ、パラリンピックへの関心が大きく高まった。また、印象的だったのは「何ができないではなく、何ができるのか」を考えることが大切という言葉で、これから求められるスポーツの可能性を考えるきっかけになった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校は平成29年に至学館大学と高大連携協定を結び、相互の教育・研究に係る連携・交流を通じて、教育の活性化を図っており、今回の講演会もその一事業を兼ねている。</p> <p>今回の講演会は本校生徒の目的意識を高め、学業や部活動等、様々な教育活動に対して、ポジティブに取り組む「心」を形成するための有意義な時間となった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>今回は講演会形式で生徒が活動する場面がなかったので、今後機会があればブラインドサッカーの実践など体験的な内容にも取り組み、生徒の障がい者スポーツへの関心を高めるような行事を企画していきたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>体育理論の授業を通して、今回の内容をさらに深く、広く探求するような活動をさせていきたい。</p>